

7-11. 人と自然との触れ合いの活動の場

7-11-1. 現況調査（既存資料調査、現地調査）

(1) 既存資料調査・聞き取り調査

1) 調査地域

事業計画地周辺とした。

2) 調査地点

事業計画地周辺の主要な人と自然との触れ合いの活動の場とした。

3) 調査時期

入手可能な最新の資料とした。

4) 調査結果

① 人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況

主要な人と自然との触れ合いの活動の場の概要は表7-11-1.1に、人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況は図7-11-1.1示すとおりである。

表 7-11-1.1 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の概要

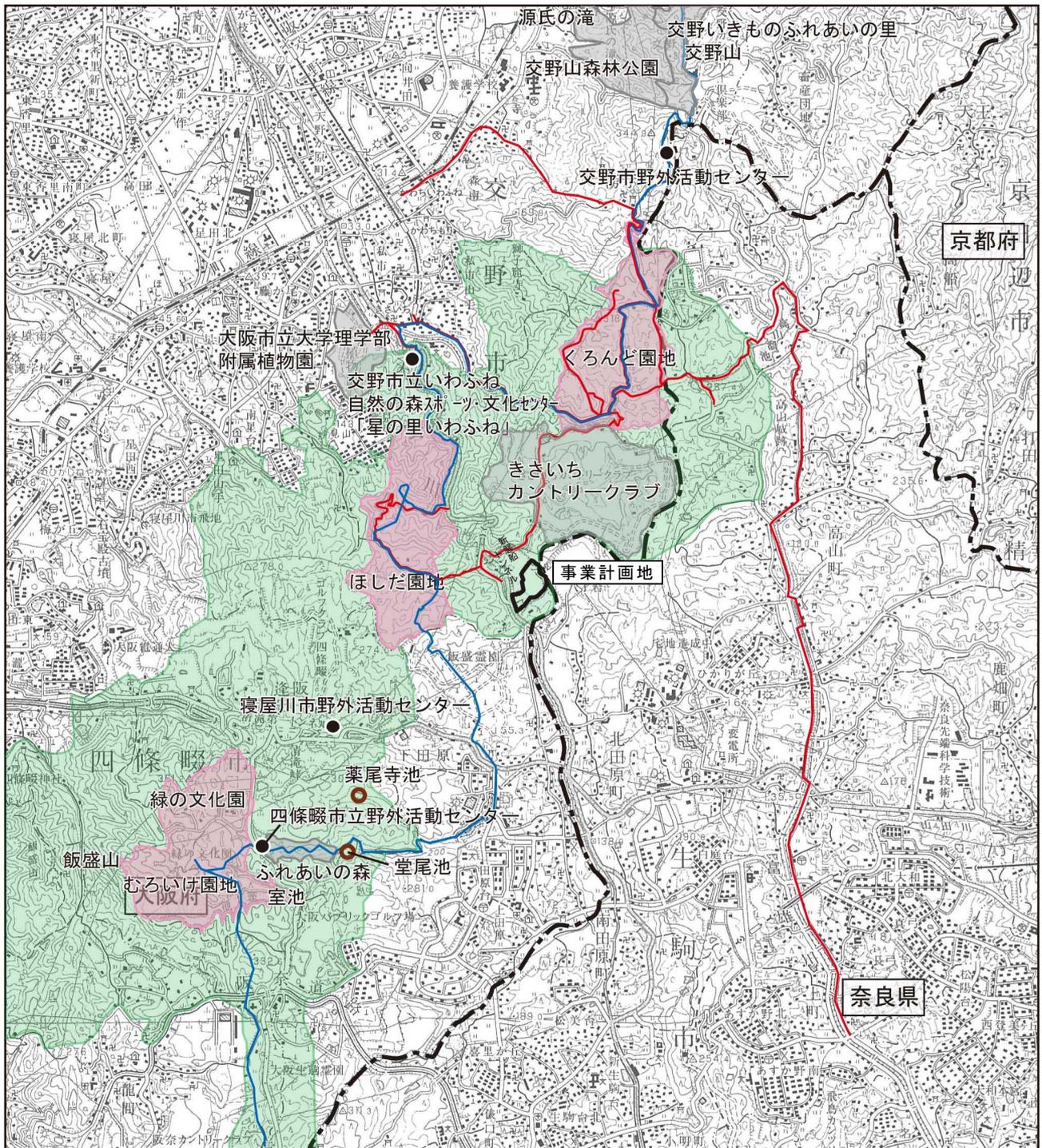
名 称	概 要
金剛生駒紀泉国定公園	金剛生駒紀泉国定公園は、大阪府と奈良県にまたがる、生駒、葛城、金剛、岩湧などの優れた山脈景観と、その裾野に点在する社寺、旧跡などの価値が高く評価され、昭和 33 年に「金剛生駒国定公園」として指定された。平成 8 年 10 月には和歌山県との府県境に連なる自然豊かな和泉葛城山系が編入され、名称も「金剛生駒紀泉国定公園」と改められた。総面積 23,119ha で、ハイキングや自然観察など年間約 1,900 万人が利用している。
天野川水辺プラザ	一級河川天野川の日の出橋から八幡橋までの約 430m の区間において、自然環境を保全するとともに、川沿いにある交流拠点と連携し、地域交流の拠点にふさわしい水辺空間を創造することを目的として大阪府により整備された。交流拠点としては、大阪市立大学理学部植物園、交野市立スポーツレクリエーションセンター、府民の森・ほしだ園地があり、大阪府最古の砂防堰堤である登録有形文化財「天野川砂防堰」が保存されている。
星の里いわふね	天野川沿いにあり、交野市立市民スポーツレクリエーションセンター、プラネタリウム、体育館、野外活動施設（キャンプ場、ロッジ）が整備されており、天野川水辺プラザに隣接し、一帯が人と自然との触れ合いの活動の場として利用されている。
くろんど園地	大阪府が府民の森として整備した園地の一つで、園内には休憩所、八ツ橋、すいれん池、キャンプ場、草原広場が整備されており、人と自然との触れ合いの活動の場として利用されている。
ほしだ園地	大阪府が府民の森として整備した園地の一つで、園地内には様々なハイキングコースがあり、星のブランコ（延長 280m、最高地上高 50m の吊り橋）、クライミングウォール（高さ 16.5m 3 面のオーバーハング固定壁）、森林鉄道風歩道橋（駐車場と案内所（ピトンの小屋）を結ぶ全長約 200m、最大地上高 10m の木製歩道橋）等が整備されており、人と自然との触れ合いの活動の場として利用されている。
磐船峡	「大阪府古文化記念物等保存顕彰規則」（昭和 24 年大阪府教育委員会規則第 8 号）で名勝に指定されており、磐船神社がある。事業実施区域西側には、駐車場、東屋、手洗い所が整備されており、触れ合い活動者やドライバーが休息に立ち寄る。

出典：「いこいこまっぷ」（生駒山系広域利用促進協議会）

大阪府ホームページ

交野市体育文化協会ホームページ

より作成



凡 例 事業計画地 府県境

- 金剛生駒紀泉国定公園
- 府民の森
- おおさか環状自然歩道
- その他の主なハイキングコース
- ビオトープ整備箇所

出典：「金剛生駒紀泉国定公園区域及び公園計画図（保護計画）」（奈良県ホームページ）
 「市民のしおり かつの」（交野市）
 「緑の文化園」（緑の文化園管理運営協議会）
 「市民の手引き 四條畷」（四條畷市）
 「京阪沿線ウォーキングまっぷ」（京阪電気鉄道株式会社）
 「いこいこまっぷ」（生駒山系広域利用促進協議会）等より作成



1:50,000

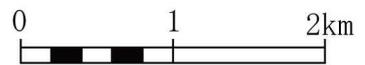


図 7-11-1.1 人と自然との触れ合いの活動の場の分布状況

② 主要な人と自然との触れ合いの活動の場

施設の供用時におけるごみ収集車等、工事の実施における工事用車両の走行が、事業計画地に隣接するほしだ園地及びその周辺を訪れる触れ合い活動者に影響を及ぼすものと考えられることから、園地及びその周辺の利用状況等について整理した。

a. 主要な人と自然との触れ合いの活動の場の利用状況及び利用環境の状況

大阪府民の森（園地）の利用状況及び北河内地区3園地（くろんど園地、ほしだ園地及びむろいけ園地）の利用環境の状況は表7-11-1.2(1)に示すとおりである。また、ほしだ園地及び近隣の鉄道駅である私市駅の利用状況の概要は表7-11-1.2(2)に示すとおりである。

大阪府民の森全体としては年150万人前後の利用者がある。事業計画地周辺の北河内地区の3園地の敷地面積は49haから105haであり、キャンプ場、休憩所、工作館等が整備されている。

事業計画地に隣接するほしだ園地は年間約40万人が利用し、行楽シーズンには1日に約5,000人が訪れる場合もある。私市駅では行楽シーズンには約3,000人の利用があり、ハイキング等のイベントも開催されている。

表 7-11-1.2(1) 大阪府民の森（園地）の利用状況及び北河内3園地の利用環境の状況

項目	内容
利用状況	平成17年：152万人、平成18年：135万人、平成19年：137万人、平成20年：144万人、平成21年：155万人、平成22年：152万人 (ほりご園地を除く8園地の利用者数)
敷地面積	くろんど園地105 ha、ほしだ園地105 ha、むろいけ園地49 ha
建物規模	くろんど園地：キャンプ場管理棟121㎡（木造2階）、休憩所（ログハウス）89㎡（木造1階）等 ほしだ園地：ピトンの小屋172㎡（鉄筋コンクリート造1階）等 むろいけ園地：水辺自然園、森の工作館、湿生花園、森の宝島等
主な事業	里山わくわく教室、キャンプ、野鳥の観察会、自然素材のクラフト、クライミング等

出典：大阪府資料より作成

表 7-11-1.2(2) ほしだ園地の利用状況の概要

調査地点	聞き取り結果																													
ほしだ園地	<ul style="list-style-type: none"> ・有料駐車場は91台、臨時駐車場は62台駐車可能。 ・有料駐車場は、多い時で1日4回転し、合計300～400台となる。 ・触れ合い活動者の8割は私市駅を利用する。 ・星田駅を利用したり、車ででの来園もある。 ・年間40万人が利用し、京阪電車のイベントの時に1日1,500人、ゴールデンウィークで1日5,000人の利用がある。 ・競技用登はん壁（クライミングウォール）利用者は、最大40人／日までとしている。 																													
京阪電鉄(株) 私市駅	①私市駅の乗降客数（乗客、降客の合計人数） <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年11月 7日火曜日：2,902人 ・平成19年11月13日火曜日：2,977人 ・平成20年11月11日火曜日：3,268人 ・平成21年11月10日木曜日：3,109人 ・平成22年11月 9日火曜日：2,975人 ②京阪電車主催のハイキングの参加人数等 （ほしだ園地を通過するイベントを抜粋） <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>イベント名</th> <th>実施年月日</th> <th>参加人数</th> <th>出発地点</th> <th>到着地点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>五私鉄 リレーウォーク</td> <td>平成 21 年 6 月 21(日)</td> <td>2,958</td> <td>香里園成田山 不動尊</td> <td>私市駅前 公園</td> </tr> <tr> <td>平日ウォーク</td> <td>平成 21 年 12 月 17 日(木)</td> <td>410</td> <td>私市駅前公園</td> <td>同左</td> </tr> <tr> <td>スポニチ ファミリーハイク</td> <td>平成 22 年 7 月 4 日(日)</td> <td>618</td> <td>天田神社</td> <td>私市駅前 公園</td> </tr> <tr> <td>平日ウォーク</td> <td>平成 23 年 7 月 7 日(木)</td> <td>42</td> <td>私市駅前公園</td> <td>同左</td> </tr> </tbody> </table>					イベント名	実施年月日	参加人数	出発地点	到着地点	五私鉄 リレーウォーク	平成 21 年 6 月 21(日)	2,958	香里園成田山 不動尊	私市駅前 公園	平日ウォーク	平成 21 年 12 月 17 日(木)	410	私市駅前公園	同左	スポニチ ファミリーハイク	平成 22 年 7 月 4 日(日)	618	天田神社	私市駅前 公園	平日ウォーク	平成 23 年 7 月 7 日(木)	42	私市駅前公園	同左
イベント名	実施年月日	参加人数	出発地点	到着地点																										
五私鉄 リレーウォーク	平成 21 年 6 月 21(日)	2,958	香里園成田山 不動尊	私市駅前 公園																										
平日ウォーク	平成 21 年 12 月 17 日(木)	410	私市駅前公園	同左																										
スポニチ ファミリーハイク	平成 22 年 7 月 4 日(日)	618	天田神社	私市駅前 公園																										
平日ウォーク	平成 23 年 7 月 7 日(木)	42	私市駅前公園	同左																										

b. 交通の状況

(a) 道路

人と自然との触れ合いの活動の場と主要な道路における自動車交通量の調査地点との位置関係及び交通量は「第4章 4-1-3. 交通 (1) 道路」に示すとおりである。

(b) 鉄道

人と自然との触れ合いの活動の場と鉄道網の状況及び1日あたりの乗車人員数は「第4章 4-1-3. 交通 (2) 鉄道」に示すとおりである。

(2) 現地調査

1) 調査概要

事業計画地周辺の人と自然との触れ合いの活動の場の現況を把握するため、現地調査を行った。

調査項目、調査地点及び調査内容及び時期等は表7-11-1.3に、現地調査地点の位置は図7-11-1.2に示すとおりである。

表 7-11-1.3 人と自然との触れ合いの活動の場の調査項目及び調査時期

調査項目		調査地点	調査時期
交通量調査		一般国道 168 号 2 地点 一般国道 163 号 1 地点	平日：平成23年 3月 2日(水)13時～ 平成23年 3月 3日(木)13時 休日：平成23年 4月17日(日) 0時～24時
利用調査	利用者数調査	星の里いわふね 新磐船トンネル北側 下田原西交差点	平日：平成23年10月26日(水) 休日：平成23年11月 3日(木)
	利用状況調査	星の里いわふね 天野川水辺プラザ ほしだ園地 磐船峡駐車場	同上
	利用環境調査	星の里いわふね 天野川水辺プラザ ほしだ園地 新磐船トンネル北側 下田原西交差点 磐船峡駐車場	同上

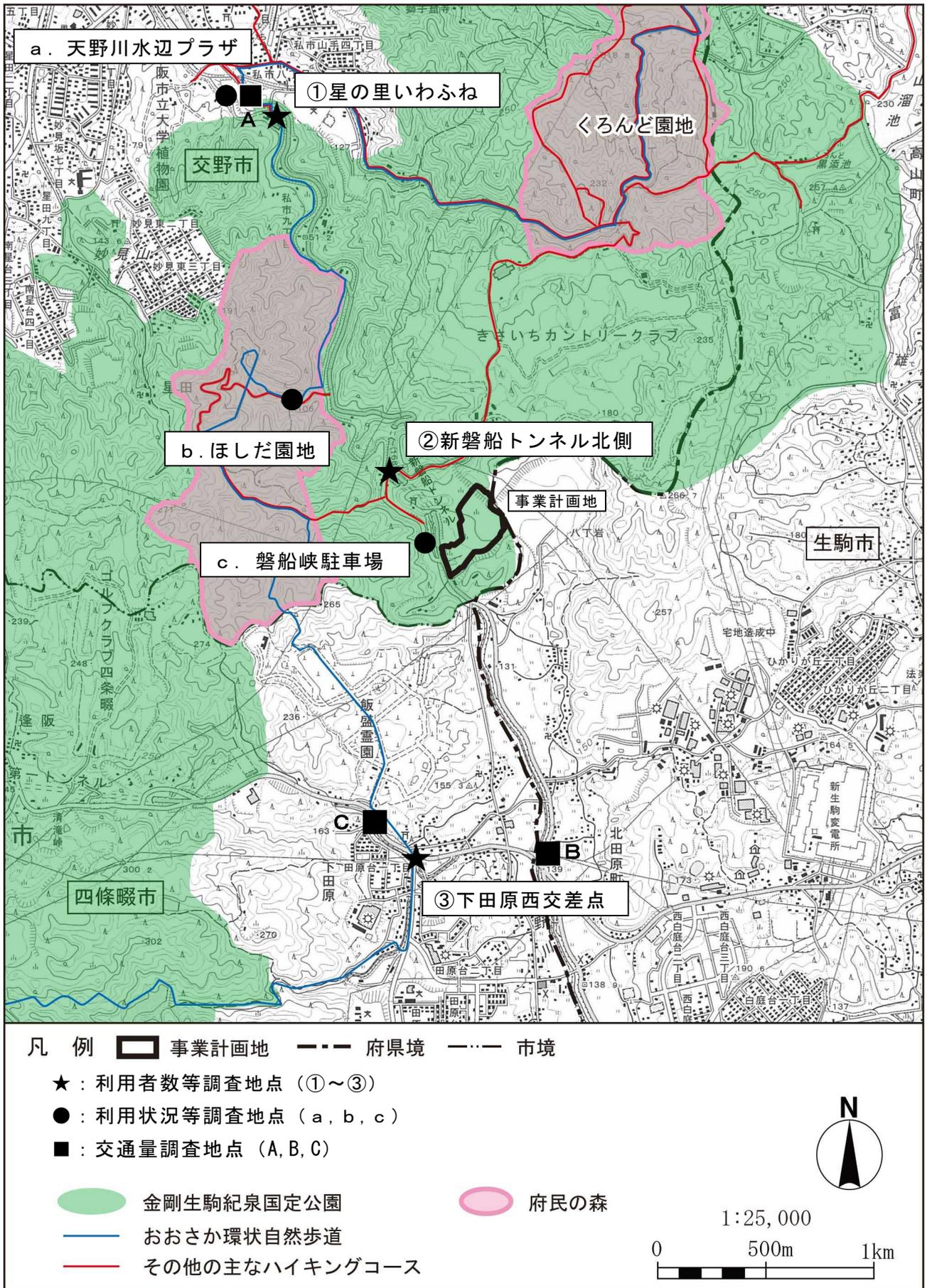


図 7-11-1.2 人と自然との触れ合いの活動の場調査位置図

2) 調査方法

調査方法は表7-11-1.4に示すとおりである。

表 7-11-1.4 調査方法一覧

調査項目		調査方法
交通量調査		カウンターを用い、10車種（特殊車、普通貨物車、バス、小型貨物車、貨客車、乗用車、軽貨客車、軽乗用車、二輪車、パッカー車）に分類し、車線ごとに測定した。
利用調査	利用者数調査	午前7時から午後7時までの時間帯に、各調査地点において国道168号及び163号を横断する通行者数を調査した。
	利用状況調査	各調査地点で1日に3～5回程度、利用者数や駐車台数を調査した。
	利用環境調査	写真撮影及びビデオ撮影により、各調査地点及周辺の施設整備状況を確認した。

3) 調査結果

① 交通量調査

交通量調査結果の詳細は「7-4. 騒音 7-4-1. 現況調査（現地調査）（3）調査結果」の表7-4-1.5に示すとおりである。

平日の24時間交通量は、地点A（一般国道168号）が11,084台/日、地点B（一般国道168号）が11,056台/日、地点C（一般国道163号）が29,317台/日であった。

休日の24時間交通量は、地点A（一般国道168号）が12,444台/日、地点B（一般国道168号）が10,434台/日、地点C（一般国道163号）が24,306台/日であった。

② 利用調査

a. 利用者数

各調査地点の利用者数の状況は表7-11-1.5(1)に示すとおりである。

地点①（星の里いわふね）では、平日の通行者総数が668人で北行のピーク時間帯は14時台、南行のピーク時間帯は9時台であった。ピーク時間帯における触れ合い活動者の割合は9割以上で、通行者の多くは触れ合い活動者であった。休日の通行者総数は2,841人で北行のピーク時間帯は15時台、南行のピーク時間帯は10時台であった。ピーク時間帯における触れ合い活動者の割合は8割以上で、平日同様に通行者の多くは触れ合い活動者であった。

地点②（新磐船トンネル北側）では、平日の通行者総数は25人、休日の通行者総数は88人と少なかったが、ピーク時間帯では通行者のすべてが触れ合い活動者であった。

地点③（下田原西交差点）では、平日の通行者総数が128人、休日の通行者総数が519人で、ピーク時間帯における触れ合い活動者の割合は休日の北行を除いて約3割であり、他の2地点とは傾向が異なっていた。

表 7-11-1.5(1) 利用者数調査結果

調査地点	調査日	通行者の進行方向	通行者総数	触れ合い活動者数 (%)	ピーク時間帯・通行者総数		ピーク時間帯の触れ合い活動者数
					ピーク時間帯	通行者総数	
地点①	平日	北行(私市駅方面)	314	273(87)	14時台	151	149(99)
		南行(ほしだ園地方面)	354	297(84)	9時台	146	139(95)
	休日	北行(私市駅方面)	1,658	1,026(62)	15時台	424	410(97)
		南行(ほしだ園地方面)	1,183	605(51)	10時台	263	219(83)
地点②	平日	東行(くろんど園地方面)	16	16(100)	13時台	7	7(100)
		西行(ほしだ園地方面)	9	8(89)	12時台	4	4(100)
	休日	東行(くろんど園地方面)	51	50(98)	10時台	19	19(100)
		西行(ほしだ園地方面)	37	37(100)	11時台	14	14(100)
地点③	平日	北行(ほしだ園地方面)	68	12(18)	11時台	11	3(27)
		南行(むろいけ園地方面)	60	9(15)	8時台	10	3(30)
	休日	北行(ほしだ園地方面)	417	357(86)	13時台	286	282(99)
		南行(むろいけ園地方面)	102	32(31)	14時台	21	6(28)

注1) 触れ合い活動者とその他の通行者は、服装や装備にもとづいて判断した。

注2) 触れ合い活動者数及びピーク時間帯の触れ合い活動者数は、通行者総数及びピーク時間帯通行者数の内数である。

注3) ピーク時間帯は、触れ合い活動者数が最大となった時間帯である。

注4) () 内の数字は、通行者総数又はピーク時間帯通行者数に対する割合 (%) である。

b. 利用状況

各調査地点における利用状況（駐車場台数、利用形態別の利用者数）は表7-11-1.5(2)に示すとおりである。

星の里いわふね及び天野川水辺プラザでは、平日休日ともに多様な利用形態がみられ、休日には多くの利用者が見られた。

ほしだ園地では、平日休日ともに多くの利用者が訪れ、ハイキング、クライミング、野鳥観察等、利用形態も多様であった。

磐船峡駐車場では、平日及び休日の駐車台数に大きな差はなかった。

表 7-11-1.5(2) 利用状況調査

調査地点	調査時期	駐車台数		利用形態別利用者数	
		調査時刻	台数	調査時刻	利用者数
天野川水辺プラザ 星の里いわふね	平日	7時50分	0台	7時50分	散歩5人
		11時00分	25台	9時10分	ハイキング9人、ゴルフ1人、ジョギング1人
		13時33分	35台	11時00分	ハイキング6人
		15時45分	29台	13時15分	散歩5人、休憩1人、ピクニック6人
	休日	7時35分	5台	7時40分	散歩4人
		9時50分	130台	9時50分	ハイキング7人、イベント参加10人
		12時50分	32台	12時50分	ハイキング10人、川遊び6人、ピクニック6人
		15時40分	12台	15時45分	ハイキング6人、休憩2人
ほしだ園地	平日	9時20分	0台	9時25分	ハイキング4人
		11時05分	7台	11時10分	ハイキング11人、休憩3人、クライミング7人、野鳥観察1人
		13時37分	7台	13時43分	ハイキング114人、休憩15人、クライミング6人
		15時32分	3台	16時10分	ハイキング5人
	休日	9時40分	26台	9時20分	ハイキング6人
		12時10分	91台（臨時駐車場50台）	12時20分	ハイキング7人、休憩100人、クライミング10人
		15時35分	60台	15時25分	ハイキング10人、休憩12人、クライミング11人
磐船峡駐車場	平日	7時00分	5台		—
		8時20分	12台		—
		12時06分	28台		—
		13時05分	22台		—
	休日	7時55分	5台		—
		11時15分	19台		—
		12時40分	27台		—
		15時00分	26台		—

注1) ハイキングの利用者数は、調査地点を約1分間に通過した人数である。

注2) ほしだ園地の利用形態別利用者数は、管理棟前で調査した。

c. 利用環境

各調査地点の利用環境の状況は図7-11-1.3に、その他の調査地点の利用環境の概要は表7-11-1.6に示すとおりである。

地点①（星の里いわふね）では、周辺に天野川水辺プラザ、いわふね自然の森スポーツ文化センター、宿泊ロッジ及び駐車場等、様々な施設が整備されている。ハイキングやキャンプ等の利用者が国道168号を横断する地点であり、私市駅方面から地点①までの区間は信号、歩道及び横断歩道が整備されている。

地点②（新磐船トンネル北側）では、ハイキングルートが国道168号を横断しているが、信号及び横断歩道は整備されていない。

地点③（下田原西交差点）では、ハイキングルートが国道163号を横断しており、信号、歩道、歩道沿いの柵及び横断歩道が整備されている。

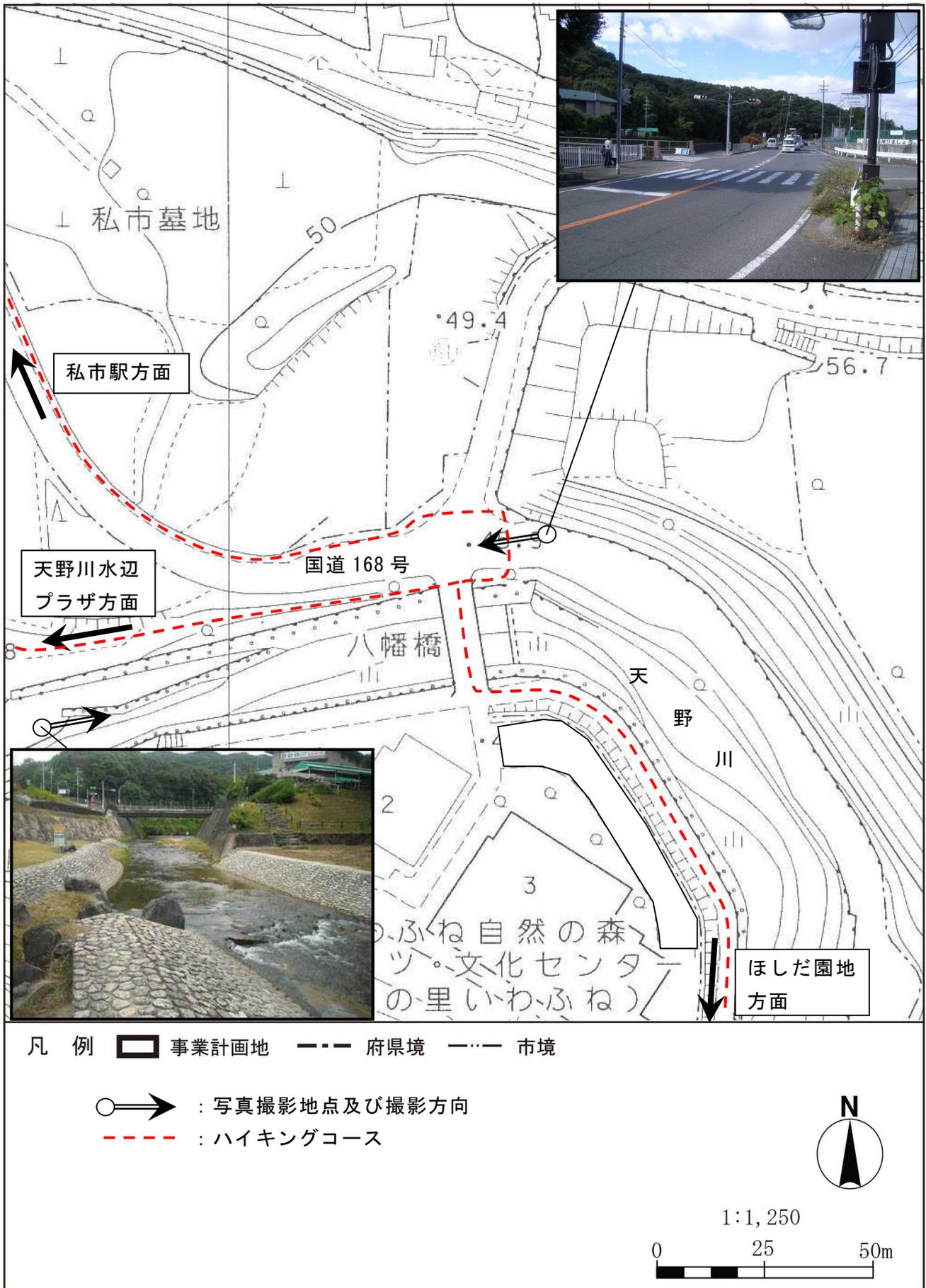


図 7-11-1.3(1) 利用環境の状況 (①星の里いわふね付近)

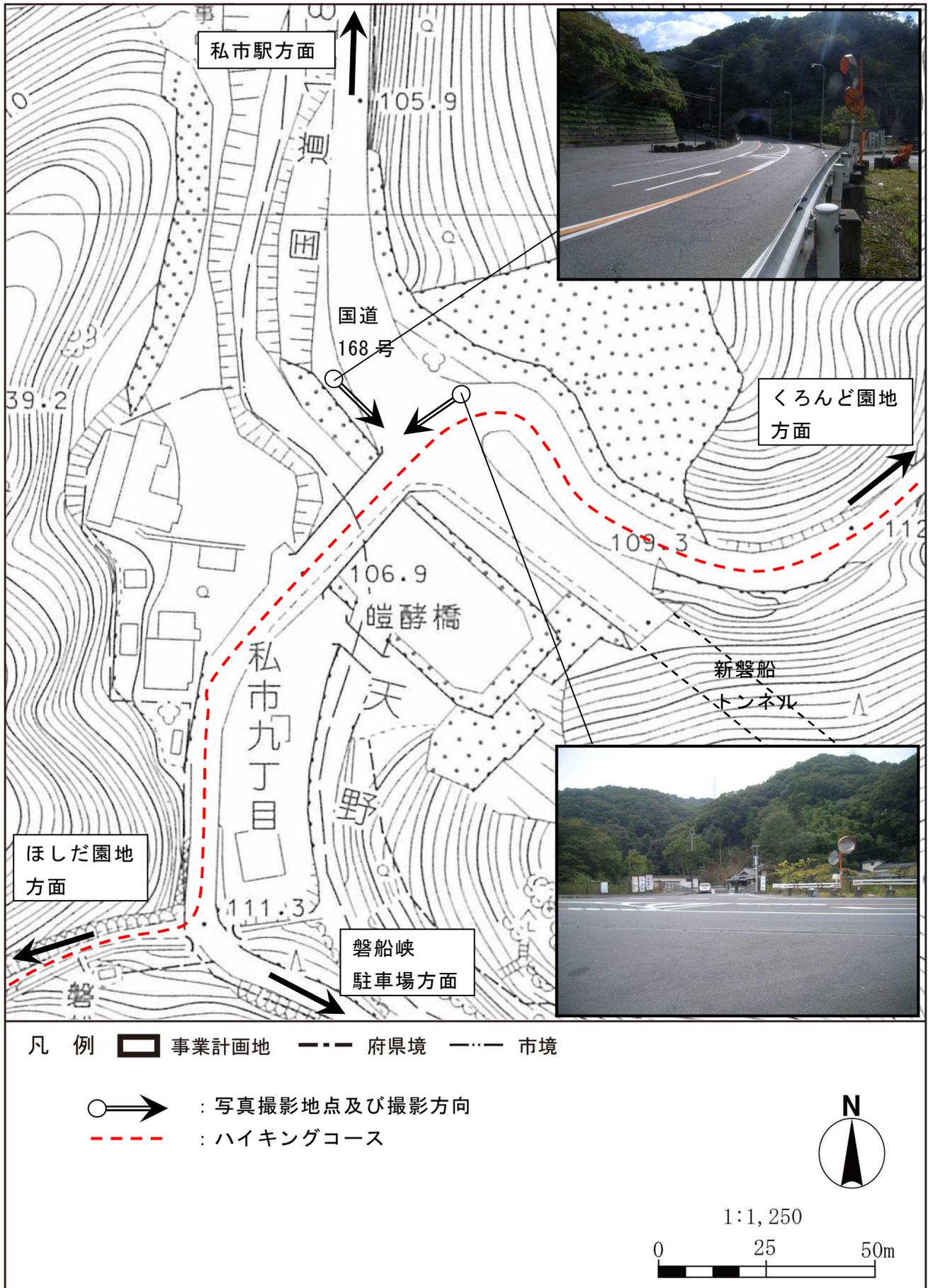


図 7-11-1.3 (2) 利用環境の状況 (②新磐船トンネル北側付近)

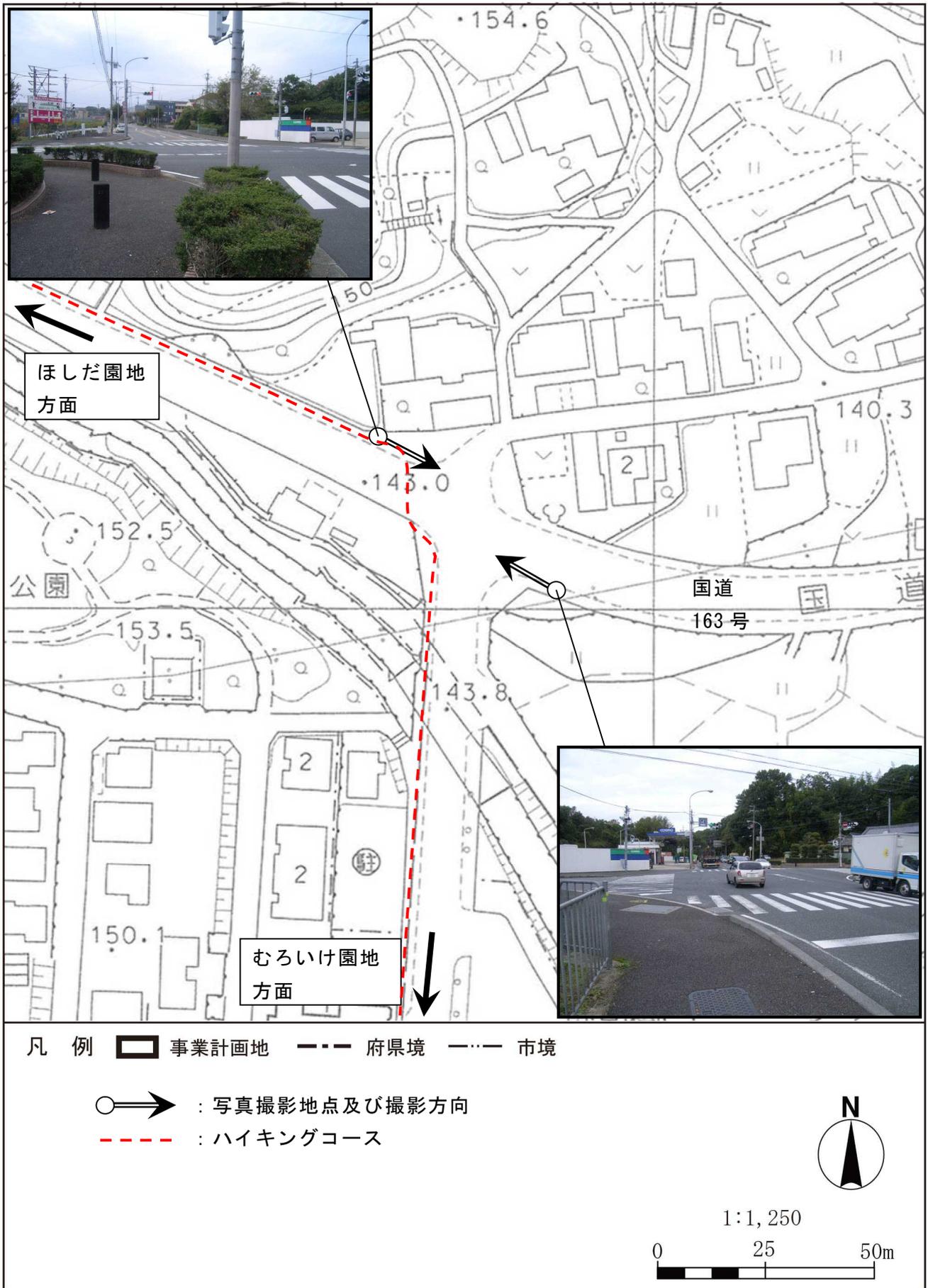


図 7-11-1.3(3) 利用環境の状況 (③下田原西交差点付近)

表 7-11-1.6 調査地点の利用環境の状況

<p>天野川水辺プラザ</p> 	<p>星の里いわふねに隣接して天野川沿いに整備された親水空間である。安全柵、遊歩道、ベンチ及び東屋が整備されており、調査当日には散歩、ジョギング、ピクニック等を楽しむ利用者が見られた。</p>
<p>ほしだ園地</p> 	<p>国道 168 号からの入口には駐車場が整備されている。管理棟前には、広場やクライミングウォールが整備され、調査当日には多くの利用者が見られた。ハヤブサの営巣地としても知られている。園地内には星のブランコ（吊り橋）が設置されており吊り橋上からの眺望が楽しめる。</p>
<p>磐船峡駐車場</p> 	<p>磐船神社南側の天野川沿いに整備された駐車場である。調査時には平日、休日を問わず休息するドライバーが見られた。また、付近を散策する触れ合い活動者や磐船神社の参拝者が利用すると考えられる。公衆トイレ及び東屋が設置されている。</p>

7-11-2. 施設の供用に係る予測

(1) 概要

ごみ収集車等の走行による、人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスへの影響について、利用者がごみ収集車等の通行ルートを横断する地点のうち、国道168号は星の里いわふね付近（交通量調査地点A）、国道163号は下田原西交差点付近（交通量調査地点C）の交通量の変化を基に予測し、方法書の評価の指針に照らして評価した。

(2) 予測

1) 予測内容

施設の供用に係る人と自然との触れ合いの活動の場への影響の予測の内容は表7-11-2.1に示すとおりである。

表 7-11-2.1 人と自然との触れ合いの活動の場の予測の内容

予 測 事 項	施設の供用に伴う人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスへの影響
予 測 項 目	ごみ収集車等の走行に伴う交通量の変化
予測対象時期	ごみ収集車等の台数が最大となる時期（平成 29 年度）
予測対象地域	事業計画地周辺
予測対象範囲	星の里いわふね付近（交通量調査地点A） 下田原西交差点付近（交通量調査地点C）
予 測 方 法	事業計画、交通量の変化による予測

2) 環境保全措置

予測の前提とした環境保全対策は、以下のとおりである。

- ・ごみ収集車の走行ルート、走行時間帯、適正走行等の運行管理を徹底し、騒音等の影響を可能な限り軽減する。
- ・ごみ収集車の収集方法及び積載の効率化により、走行台数の削減を図る。
- ・焼却灰等の搬出車両について、搬出量に応じた適正な車種・規格の選定や効率的な運行により、車両数を削減するよう努めるとともに、適正な走行管理に努める。

3) 予測方法

人と自然との触れ合いの活動の場の予測は、現況調査結果及び事業計画を踏まえ、供用時における交通量の変化の状況を基に予測した。

(3) 予測結果

供用時における現況からの交通量の変化は表7-11-2.2に示すとおりである。

なお、時間帯は人と自然との触れ合いの活動が行われる時間帯は主に昼間であることから、7～19時の12時間とした。

供用時における交通量の変化率は地点Aで1.7%、地点Cで0.7%とわずかであることから、人と自然との触れ合いの活動の場への影響は小さいと予測される。

表 7-11-2.2 供用時における交通量変化率

時間帯：7～19時

地点番号	地点名	一般車両 (台/12時間)	ごみ収集車等 (台/日)	一般車両+ ごみ収集車等 (台/12時間)	ごみ収集車等 混入率 (%)
A	私市 (国道 168 号)	8,601	148	8,749	1.7
C	下田原 (国道 163 号)	20,326	146	20,472	0.7

注) 一般車両台数は、現地調査結果から設定した。

7-11-3. 工事の実施に係る予測

(1) 概要

工事用車両の走行による、人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスへの影響について、利用者が工事車両の通行ルートを横断する地点のうち、国道168号は星の里いわふね付近（交通量調査地点A）、国道163号は下田原西交差点付近（交通量調査地点C）の交通量の変化を基に予測し、方法書の評価の指針に照らして評価した。

(2) 予測

1) 予測内容

工事の実施に係る人と自然との触れ合いの活動の場への影響の予測の内容は表7-11-3.1に示すとおりである。

表 7-11-3.1 人と自然との触れ合いの活動の場の予測の内容

予 測 事 項	工事の実施に伴う人と自然との触れ合いの活動の場へのアクセスへの影響
予 測 項 目	工事車両の走行に伴う交通量の変化
予測対象時期	工事車両の台数が最大となる時期
予測対象地域	事業計画地周辺
予測対象範囲	星の里いわふね付近（交通量調査地点A） 下田原西交差点付近（交通量調査地点C）
予 測 方 法	事業計画、交通量の変化による予測

2) 環境保全措置

予測の前提とした環境保全対策は、以下のとおりである。

- ・工事用車両について、搬出入量に応じた適正な車種・規格の選定や効率的な運行により、車両数を削減するよう努める。
- ・工事関係者の通勤について、可能な限り自動車の相乗りを推進し、通勤用の自動車走行台数の抑制に努める。

3) 予測方法

人と自然との触れ合いの活動の場の予測は、現況調査結果及び事業計画を踏まえ、工事中における交通量の変化の状況を基に予測した。

(3) 予測結果

工事中における現況からの交通量の変化は表7-11-3.2に示すとおりである。

なお、時間帯は人と自然との触れ合いの活動が行われる時間帯は主に昼間であることから、7時～19時までの12時間とした。

工事中における交通量の変化率は地点Aで0.3%、地点Cで0.5%とわずかであることから、人と自然との触れ合いの活動の場への影響は小さいと予測される。

表 7-11-3.2 工事中における交通量変化率

時間帯：7時～19時

地点番号	地点名	一般車両 (台/12時間)	工事用車両 (台/日)	一般車両+ 工事用車両 (台/12時間)	関係車両 混入率 (%)
A	私市 (国道 168 号)	8,601	28	8,629	0.3
C	下田原 (国道 163 号)	20,326	108	20,434	0.5

注) 一般車両台数は、現地調査結果から設定した。

7-11-4. 評価

(1) 評価方法

予測結果について、以下に示す方法書の評価の指針に照らして評価した。

評価 の 指 針	<p>①人と自然との触れ合いの活動の場の保全又は整備について十分な配慮がなされていること。</p> <p>②環境基本計画、大阪府新環境総合計画、自然環境の保全と回復に関する基本方針等、国又は大阪府が定める環境に関する計画又は方針に定める目標の達成と維持に支障を及ぼさないこと。</p> <p>③自然公園法に定める基準等に適合するものであること。</p>
-------------------	--

(2) 評価結果

1) ごみ収集車等の走行

予測結果によると、ごみ収集車等の走行による人と自然との触れ合いの活動の場への影響は、ごみ収集車等の交通量の変化率がわずかなものであることから影響は小さいとしている。

本事業による人と自然との触れ合いの活動の場への影響をさらに低減するための環境保全対策として、

- ・ごみ収集車等の運転者は、人と自然との触れ合いの活動の場の利用者が走行ルートを横断する地点では、特に利用者に注意するよう周知徹底する。

の対策を講じることから、環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮していると評価する。

以上のことから、評価の指針を満足すると考える。

2) 工事用車両の走行

予測結果によると、工事用車両の走行による人と自然との触れ合いの活動の場への影響は、工事用車両の交通量の変化率がわずかなものであることから影響は小さいとしている。

本事業による人と自然との触れ合いの活動の場への影響をさらに低減するための環境保全対策として、

- ・工事用車両の運転者は、人と自然との触れ合いの活動の場の利用者が走行ルートを横断する地点では、特に利用者に注意するよう周知徹底する。

の対策を講じることから、環境への影響を最小限にとどめるよう環境保全について配慮していると評価する。

以上のことから、評価の指針を満足すると考える。